



かながわの交通

2012
8

今年の交通安全年間スローガン一般部門(全日本交通安全協会会長賞)
～歩行者・自転車利用者に対するもの～


自転車に 免許はなくても ルールあり



少年交通指導員の活躍～宮前交通安全協会

「えびーにゃ」とキャンペーン～海老名市交通安全協会

ハンドルキーパー運動推進中!



飲酒運転根絶!!

今日のハンドルキーパーさんは?

◎県内の交通事故発生概況(7月末現在)

◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数		総数	男	女
平成24年		20,661	84	24,473	県人口	9,071,272	4,545,191	4,526,081
平成23年		21,831	92	25,956	免許人口	5,526,718	3,219,893	2,306,825
増減数		-1,170	-8	-1,483	割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人
増減率		-5.4	-8.7	-5.7				

(県人口は平成24年7月1日、免許人口は平成24年6月末現在)

第45回二輪車安全運転全国大会

《神奈川県チーム団体総合第7位》

《Aクラス(400CC)小倉選手が個人総合で第3位入賞》
《Bクラス(1100CC)杉山選手が個人総合で第8位入賞》

(財)全日本交通安全協会 二輪車安全運転推進委員会 主催、内閣府、警察庁、文部科学省、全国二輪車安全普及協会、日本自動車工業会後援による第45回二輪車安全運転全国大会は、8月4日、5日の

両日、全国47都道府県の選手76人、本県からは鈴木繁監督以下、Aクラス小倉剛、Bクラス杉山盛二、Cクラス村田悠司、女性クラス北小路結花の各選手が出場して三重県鈴鹿サー

キットで開催され、本県チームはチーム力を発揮し健闘した結果、昨年を上回る団体第7位の成績を収め、個人では第3位と第8位に入賞しました。

●競技の模様

例年と比べると比較的涼しいコンディションの中、10時30分から受付、正午から開会式等が行われ、その後交通安全教育センターの二輪車コースにおいて、持ち点10000点の減点方式により各クラスに分かれてA、

B、C、Dの各ブロック単位で競技が開始されました。

第1日を終えて、Aクラスの小倉選手が減点なしの満点、Bクラス杉山選手が9500点、高校生クラス村田選手が9650点、女性クラス北小路選手が9800点で団体で同率第6位と、好位置につきました。

応援団の期待が集まる中、2日目は小倉選手がコンビネーションスラロームで僅かなミスで惜しくも満点を逃したものの個人総合第3位、杉山選手はほとんどノーマイスで、初日の傾斜地走行の減点があったが個人総合第8位に入る好成績を収め、村田選手、北小路選手と4人が力を合わせ、団体第7位を勝ち取り、来年の

上位入賞、優勝を誓いました。皆様方のご声援ありがとうございました。



監督、選手、サポーターの皆さん

第47回交通安全子供自転車全国大会

《小田原市立桜井小学校が出場 団体で全国第21位》

(財)全日本交通安全協会、警察庁主催、内閣府、文部科学省、日本放送協会、朝日新聞社等の後援による第47回「交通安全子供自転車全国大会」が、8月1日(水)に全

国47都道府県から188人の代表選手が参加し東京ビッグサイトで開催されました。本県からは、小田原市立桜井小学

校の諏訪間なおさん(6年)、鈴木美桜さん(6年)、奥津菜々子さん(6年)、関野智也さん(5年)の4名が出場しました。

午前9時からの「学科テスト」に引き続き開会式が行われ、全日本交通安全協会奥村萬壽雄理事長、来賓の警察庁石井交通局長のあいさつの後、奥村理事長の合図で実技(安

全・技能走行)が開始されました。昨年の優勝県である長野の代表選手からスタートし、熱

戦が繰り広げられた結果、団体優勝は山形県、個人総合は長野県の選手が優勝しました。

今大会では、学科の満点賞はありませんでしたが、上位入賞校を見ると、実技はもろん学科の総合成績が団体優勝の鍵となっており、個人総合はいずれも、学科は9割、実技は満点で、実技の総合タイ

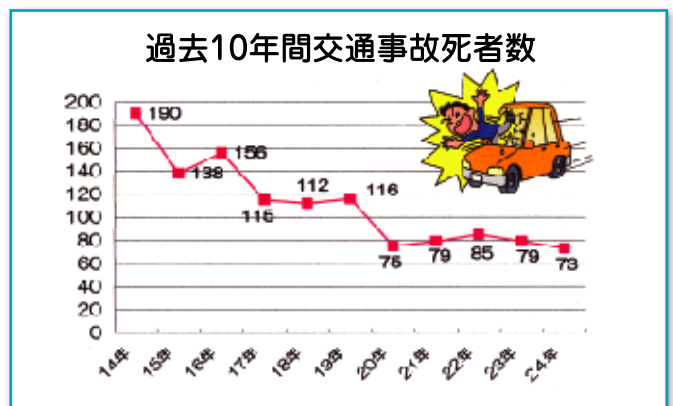
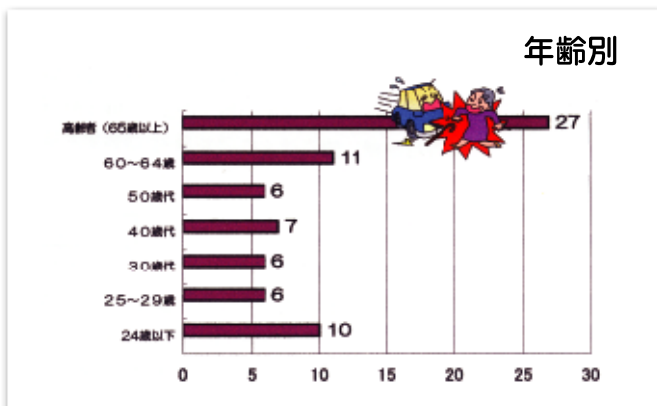
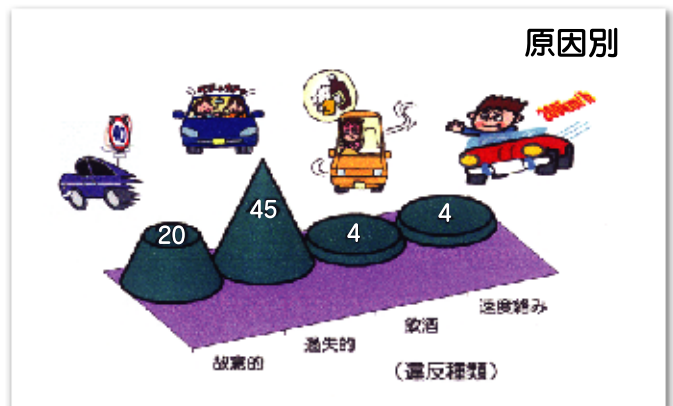
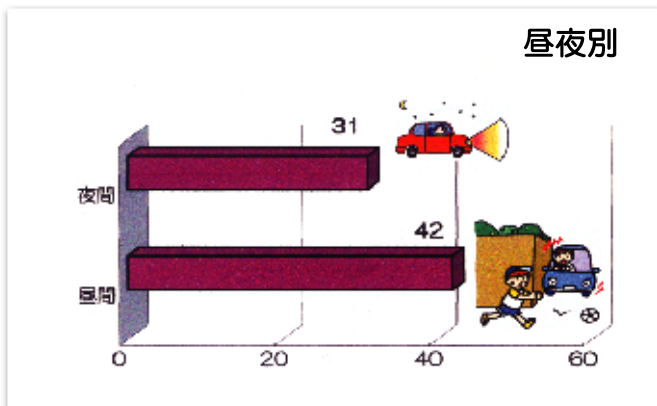
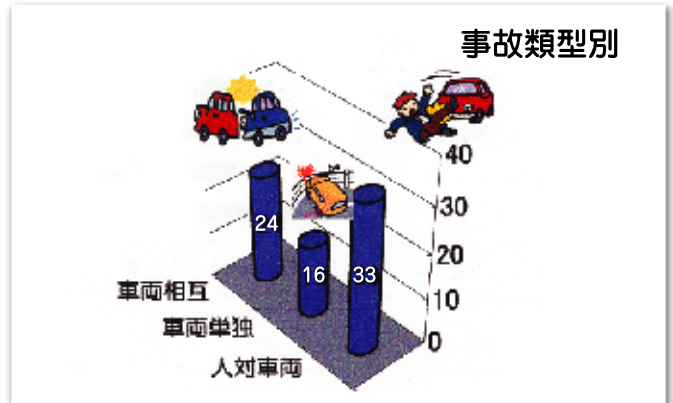
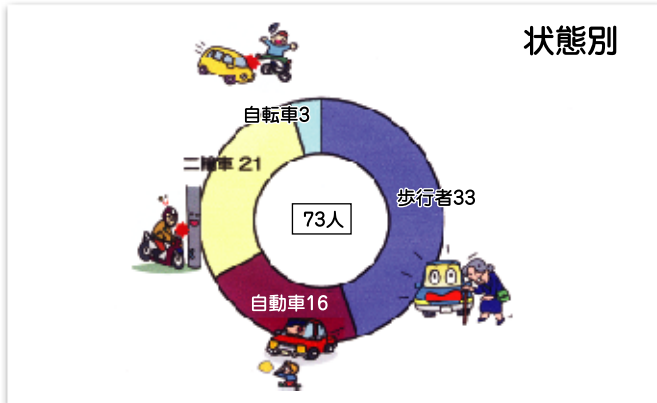
ム(僅差)によって勝敗が分かれました。



「スラローム」に奮闘中のAクラス小倉選手

交通死亡事故（平成24年上半期）の特徴

（交通死亡事故死者数73人の分析）



(県警本部資料から)

～夏の交通事故防止運動結果～

7月11日(水)から20日(金)までの10日間、「安全は心と時間のゆとりから」、「交通ルールを守って 夏を楽しく安全に」をスローガンに、①過労運転・無謀運転の防止、②子どもと高齢者の交通事故防止、③自転車の交通事故防止を運動の重点に実施した夏の交通事故防止運動では、期間中の交通事故発生件数、死者数、傷者数ともに減少しましたが、発生件数の約3割及び死亡事故はすべて二輪車の関係する事故でした。

■期間中の県下の交通事故発生概況

区分	発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
本年	1,017	2	1,182
前年同期比	-235	-3	-310
増減率(%)	-18.8	-60.0	-20.8

■死亡事故の概要

- 7月14日(土)7:06 横浜市神奈川区の国道15号において、62歳運転の普通自動二輪車が転倒後、ごみ収集車が衝突
- 7月15日(日)16:40 足柄上郡山北町の東名高速道路において、普通乗用車同士の追突事故現場に25歳運転の大型自動二輪車が追突

インフォメーション

- セーフティトレーニング 9月 9日
- 地区交通安全協会会長会議 9月13日
- 秋の全国交通安全運動
9月21日(金)～30日(日)までの10日間
- 交通事故死ゼロを目指す日 9月30日

タイムマシーンをおげたい

23

警察官から見た交通死亡事故の回顧録

「一人娘を亡くした悲しみ」

そこかしこから暖かい夕餉の支度の匂いが漂うある日の夕方、誰もが帰宅を急ぐ時間帯に、貨物車がバス停に突っ込み、偶然バスを待つていた若い女性が跳ね上げられ、意識不明の重体となりました。

避ける間も与えられないほど一瞬の出来事でした。

数日後、病院からその女性が亡くなったとの連絡が入ったので、私は急いで病院に駆けつけました。すると、既に、女性の家族が霊安室と廊下で悲しみに打ちひしがれていました。

霊安室にはいると、父親が一人娘の名前を小声で呼びながら、身体を揺すり続けていました。

私は、声をかけることが出来ず、その横で遺体に手を合わせていました。

父親は、娘を揺すっていた手を止め、

「お前は、もう生き返らない

んだな。」

と泣き出し、その嗚咽が部屋中に響き渡りました。

ひとしきり泣いた父親は、「こんな事は、私の娘ひとり

で十分だ。」

と、独り言のようにつぶやき、私に深々と頭を下げました。

頭を下げている父親を目の前にして、私は、焦りました。

「私一人で何ができるだろうか。」

この父親の思いに報いることができるだろうか。

遺族を目の前にして、警察官である自分の無力さを感じる。

一方で、こんなにも簡単に人の命を奪ってしまう交通事故にやり

場のない憤りを感じ、「こんな悲しみを味わう前に、交通社会

に生きる全ての人に今すぐ伝えなければならぬことがある。」という思いが身体中を駆け巡った。

トピックス

地区交通安全協会連合会総会の開催

- 6/22 相模地区交通安全協会連合会 (相模原)
- 6/24 湘南地区交通安全協会連合会 (箱根)

総会は、平成23年度の事業報告、24年度の事業計画、予算などが審議され、了承されました。県協会からは、高橋専務理事、西村事務局長、大平経理部長がそれぞれ出席し、本年度における県交通安全協会と地区協会の業務に関する連携、交通安全に関する取り組みなどについて協議が行われました。



写真は湘南地区の総会

《「交通死亡事故ゼロ」更新中》～逗子市交通安全協会

6月28日、逗子市は「交通死亡事故ゼロ」の記録が葉山町を抜いて、県内第4位の記録となり逗子警察署で開催された「交通死亡事故ゼロ1,675日達成」記念式典において、逗子警察署長から感謝状が逗子市交通安全協会に授与されました。平成19年10月26日に発生した交通死亡事故以来、現在もゼロ更新を続け(8月1日現在1,740日)、式典では小林副市長からお祝いの言葉がありました。続いて県交通安全協会高橋専務理事から「滋賀県比叡山延暦寺に平安時代から伝わる荒行『千日回峰行』もこれまで47人、この記録達成もいかに困難なことか、」等と、その偉業を讃える挨拶があり、逗子市交通安全協会小林会長も「これからもゼロ更新を続けるためにがんばろう」と呼びかけました。



賛助会員の紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。

- (株)アイエンス ————— 秦野市落合
- 東海開発(株)大秦野カン トリークラブ ————— 秦野市横野
- 平田自動車工業(株) ——— 大和市上和田
- 北里大学相模原キャンパス 管理営繕センター ————— 相模原市北里
- 三菱重工業(株)汎用機・特車事業本部 — 相模原市田名
- キャタピラー・ジャパンサガミゼネラル サービス(株) ————— 相模原市田名
- 日産自動車(株)相模原部品センター — 相模原市麻溝台

募 集

(財)全日本交通安全協会と毎日新聞社では、平成25年に使用する交通安全年間スローガン(標語)を次の要領で募集しています。前月号で募集案内した交通安全ファミリー作文と合わせ、ふるってご応募ください。

●募集期間

平成24年9月30日(日)まで(必着)

●募集区分

- 1 一般部門A:一般及び学生(小・中学生も応募可) 運転者(同乗者を含む。)に対するもの
 - ①運転マナーの向上(高齢者、子ども、身障者等への思いやり運転)
 - ②飲酒運転の根絶
 - ③すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - ④夕暮れ時の早め点灯の促進
- 2 一般部門B:一般及び学生(小・中学生も応募可) 歩行者・自転車利用者に対するもの
 - ①高齢者の交通安全(正しい横断など)
 - ②自転車の安全利用の推進(自転車安全利用五則の徹底など)
 - ③夕暮れ時、夜間の交通事故防止(反射材用品の活用など)

平成25年使用交通安全年間スローガン(標語)

3 こども部門:小・中学生に限る

小、中学生自身に交通安全を呼びかけるもの
 ※自作、未発表作品に限る。過去の入賞作品や他で公表・使用されたスローガンと同一性ないし酷似と判断された場合、審査対象とならない。

●送り先

〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
 毎日新聞社事業本部「交通安全年間スローガン」係
 (電話03-3211-0190)

●発表

平成24年11月下旬の毎日新聞紙上及びNHKテレビ、ラジオ

●表彰式

平成25年1月下旬の第53回交通安全国民運動中央大会に最優秀者を招待(予定)。

●●●●● 新任事務長を紹介～よろしくお願ひします～ ●●●●●

【抱負】

この5月に前任の武田事務長が、突然病気を患い療養中でしたが退職したため、7月から浦賀交通安全協会の事務長に就任しました荻野でございます。

浦賀警察署を最後に40年間お世話になった神奈川県警察を定年退職し、その間、約35年間交通警察に携わってきました。このたび事務長のお話を頂き、縁ある浦賀交通安全協会にお世話になることになりました。

浦賀は、ペリー提督の黒船来往で歴史的に知られた場所で、海あり山ありの風光明媚で、気候も温暖で過ごし易いところです。

浦賀管内の免許人口は約11万2千人と多く、今年はずでに6人の尊い命が亡くなり、また高齢者の占める割合も多いことから、高齢者事故が増加しているところです。そして、全国的に問題となっている無謀運転や自転車対策も急務となっております。

これらのことから悲惨な交通事故を1件でも減らすため、浦賀警察署及び県・市の交通行政に協力するとともに、交通安全協会役員、交通指導員さらに外郭団体の方々のお力添えを賜り、交通安全協会としての個々の目的に取り組み、努めていきたいと思っております。

【プロフィール】

横浜市出身で妻・次男の3人で三浦海岸に住んでいます。趣味は広く浅く色々ありますが、今はゴルフに夢中になっております。ゴルフの良いところは、体力の差があまり関係なく対等にでき、また良き仲間が増えることです。そして緑のなかで一日過ごせることが醍醐味となっております。



浦賀交通安全協会
荻野 昭事務長

【抱負】

初めまして、本年7月より相模原南交通安全協会事務長に就任いたしました小須田と申します。

昨年、相模原北警察署を最後に神奈川県警察を定年退職後、居住する相模原市内の交通事故防止のお役に立てればと相模原市生活安全課の交通安全指導員として市内の保育園・幼稚園・小学校等に対する交通安全教育活動に携わっておりましたが、縁あって相模原南交通安全協会の事務長へのお誘いをいただき就任した次第です。

相模原南警察署管内には、小・中学校39校、高校8校、大学3校の計50校と、JR横浜線駅2、相模線駅3、小田急線駅3の計8駅のほか、23カ所もの駐輪場が設備されております。

また、地勢は平坦地が多いことから通勤・通学時の自転車利用者が他の地域と比べて突出して多い地域であり、結果、当然のごとく、県下有数の自転車関連事故多発地域でもあります。

自転車関連事故の多くは地域居住者の関わる事故であり、地域に居住する人たちが地域の交通安全を図るため交通安全協会を通じて地域の交通事故防止啓蒙活動を積極的に行い不幸な交通事故を撲滅するため努力している中、地区交通安全協会として少しでもその活動を助けることができれば幸いと思っています。

まだ、勉強中であり、警察署員・安全協会・ボランティアの皆様等にご迷惑をかけることもあると思いますが、一生懸命がんばりますので、今後のご指導よろしくお願ひします。

【プロフィール】

神奈川県川崎市出身です。現在は、子育ても終わり妻と犬・猫のふたりと2匹でのんびりと生活しています。

健康状態はよいのですが時に老いを感じることもあり、足腰の鍛錬と自分の年齢を考えた健康管理に心がけたいと思います。



相模原南交通安全協会
小須田 博事務長

その250 都筑交通安全協会から

都筑交通安全協会(皆川豊蔵会長)では、都筑警察署と連携して市営地下鉄センター南駅地区の飲食店及び酒類販売店を訪問し、飲酒運転根絶やハンドルキーパーのミニ幟旗をレジ等目立つ所に設置を依頼するなど、ハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



ハンドル
キーパー
運動の紹介

その249 港北交通安全協会から

港北交通安全協会(嶋村尚美会長)では、港北警察署と連携して新横浜駅前の飲食店やホテル等を巡回指導し、ハンドルキーパー運動推進ポスターやステッカーを配布しながら飲酒運転の根絶を呼びかけました。



その252 津久井交通安全協会から

津久井交通安全協会(諸角光雄会長)では、津久井町内の料理店、居酒屋等の飲食店を訪問し、店主や従業員に対し、ハンドルキーパーバッジを配布しながら飲酒運転の根絶、ハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その251 宮前交通安全協会から

宮前交通安全協会(村野博会長)では、東急田園都市線宮前平駅前において幟旗を立て、駅改札口から出てくる人に飲酒運転根絶グッズを配布し、さらに同駅周辺の飲食店に立ち寄りハンドルキーパー割り箸を配布しながらハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



外国籍の方の運転免許手続の一部改正について

平成24年7月9日から入管法等が改正され、外国籍の方のうち、特別永住者および中長期在留者には、住民票の写しが発行されます。よって、下記の手続を行う場合は、**国籍入りの住民票の写しの提出が必要**となりますので、誤りのないようお願いします。

- 新規に運転免許を取得するとき
(すでに日本の運転免許を保有しており、新たな種目を追加する場合を除く。)
- 外国免許から日本の免許に切り替えるとき
- 日本の免許を失効させ再取得するとき
- 日本の免許証の国籍・氏名・生年月日を変更するときなど



注意

- 住民票の写しが発行されない短期滞在の方は、旅券と住居地を証明する書類を準備してください。
- 手続きの際は身分確認のため、旅券、在留カード、特別永住者証明書の**いずれか1通**を持参してください。

※在留カード等への切替えが済んでいない方は、有効な外国人登録証明書を持参して下さい。

問い合わせ先

神奈川県警察 運転免許本部 ☎045-365-3111 (代表)

- 運転免許取得、外国免許切替え、失効後再取得
試験課 学科試験係
- 運転免許の記載事項変更
免許課 免許第三係





座間交通安全協会
会長
曾根 寿一さん
そね としかず

座間交通安全協会は、昭和51年11月15日に大和警察署から分離し、座間・海老名両市を管轄する座間警察署が入谷の地に誕生して以来、警察署内で免許更新業務等を行っていましたが、平成3年11月に警察署の駐車場の一角に事務所を移転しました。さらに平成13年5月1日付けで海老名警察署が新たに発足した関係で、海老名市を分離して座間市のみを管轄としたこと等の経過を踏まえて、平成23年4月、「座間市交通安全協会」から「座間交通安全協会」と名称を改め、現在に至っております。

市内から見渡す大山連峰は季節ごとにその風貌を変え、麓から続く田園風景は身近でのどかであり、座間市民に安らぎを与えてくれています。また、市内は古くから湧水が溢れ出る土地柄で、今は10カ所程度と少なくなりましたが、昭和56年当時は62カ所の湧水が確認されたとのことで、生活用水などに利用されてきています。

「かながわのまつり50選」にもある5月4、5日の端午の節句に相模川グラウンドで行われる「大鳳まつり」は、約200年の歴史を持ち、その大きさは13メートル四方で、重さ約1トンもある大鳳を100人以上の手で揚げるものです。大勢の観衆が見守る中、優雅に舞う姿はその場に集う一同が感動させられる催しで、この両日には朝早くから当協会の交通指導員等が繰出して、観客が無事に会場を後にするまで交通誘導などを行うのですが、その総指揮を執るのが曾根会長です。その他、市民ふるさとまつりや座間市の花である「ひまわりまつり」などにおける交通対策、また、市内の交通事故情勢を踏まえて警察署の指導を得ながら他の交通関係団体とも連携して行う交通街頭指導や広報啓発活動等の各種対策においても、活躍しています。ごく最近では、警察署に幼稚園児1300余名が訪れ、笹竹2本の七夕飾りを作りましたが、そのお手伝いをして安全祈願を行いました。

会長は、日産自動車を退職後の平成13年に交通指導員として委嘱を受けてから交通安全協会のボランティア活動に従事するようになり、協会役員としては支部長、副会長を経て昨年からは会長に就任しています。

家庭では、娘さん夫婦とお孫さん4人に囲まれ、円満な生活の中、合間を見てドライブがてらカメラを片手に各方面に出かけるのを楽しみも引き受けており、健康にはくぐれぐれも留意され、今後も益々のご活躍をお願いしたいと思います。

(取材協力：座間交通安全協会)



自転車マナーアップ指導員は4名体制で、4月の1カ月間は研修期間として、警察本部教育隊員による研修、自転車教室、キャンペーン等への参加、マナーアップ指導員としての知識の習得等の活動を経て、5月に実施された自転車マナーアップ強化月間の初日、5月1日に川崎市庁舎において、川崎市市長、川崎市警察部長、川崎警察署長等関係団体が参加した自転車マナーアップ指導員証交付式が行われ、川崎市市長から自転車マナーアップ指導員証が交付されました。

交付式の後、警察、川崎市、交通関係団体が参加した自転車マナーアップキャンペーンにおいて、自転車マナーアップ指導員としての活動を開始しました。

自転車マナーアップ指導員の活動は、月、水、金の週3日、午前8時から午後7時までの間の6時間、川崎、川崎臨港、幸、中原、高津、多摩の各警察署が指定した自転車事故多発地域での巡回を行っています。

こんにちは
「川崎市交通安全協会」です

社団法人川崎市交通安全協会が行っています、自転車マナーアップ推進事業における自転車マナーアップ指導員の活動について紹介します。

自転車は、児童から高齢者までの幅広い層が多様な目的で利用する市民の身近な交通手段として利用されています。しかし、その反面交通ルールを遵守するという意識は十分に浸透しておらず、交通ルールの無視やマナーを逸脱した運転が交通事故の原因にもなっています。

特に、川崎市の南部地域は土地が平坦なこともあり、他の地域よりも自転車利用者が多く、自転車事故の多い地域です。昨年の川崎市市内での交通事故は、発生件数、死者数、負傷者数とも減少していますが、自転車の関係する人身交通事故は1,405件(+6件)と増加しており、市内7区のうち川崎区、幸区、中原区、高津区、多摩区の5区が自転車事故多発地域に指定されています。

このような情勢のなか、川崎市は自転車利用者のマナーアップを図るため、警察と連携した自転車マナーアップ推進事業を本年度から実施することとなり、当協会が川崎市から事業を受託したものです。

活動開始前には、警察署に立ち寄り交通課総務係長から活動に当たっての指示や自転車事故に関する情報の提供を受けた後、指定地域内を徒歩で巡回し、交通ルールを無視した運転やマナーの悪い運転者には「マナーアップカード」(イエローカード)の交付を行い、違反の是正や個別指導を行うほか、広く自転車利用者への声かけや啓発チラシ等の配布などの啓発活動を行っています。

また、巡回活動の他に、市や警察が開催する啓発キャンペーンや街頭一斉指導への参加や自転車が関係した重大事故現場での指導など見える啓発活動を実施しています。

(写真は自転車マナーアップ指導員)
(小田記)

地区交通安全協会の活動紹介

～夏の交通事故防止運動～



山手
イオン前広場及びその周辺において、のぼり旗を掲げ道行く人にチラシや反射材等の啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



戸塚
JR戸塚駅東口駅前広場で、のぼり旗を掲出し、通行人駅利用者、通行車両等にチラシやうちわ、ポケットティッシュを配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



葉山町
御用邸前交差点において、警察署、葉山町との合同による「夏の交通事故防止運動キャンペーン」を実施し、チラシや啓発物を配布しながら交通安全意識の向上を働きかけました。



足柄
河南沢等3箇所の交差点において、のぼり旗を掲出し、通行車両、通行人に対し、チラシを配布するなどにより「夏の交通事故防止運動キャンペーン」を展開しました。

南
警察署において講習後、弘明寺商店街において「夏の交通事故防止運動キャンペーン」を展開し、運動の周知、交通安全意識の高揚を図りました。



多摩
JR稲田堤駅及び京王稲田堤駅前に分かれて、「夏の交通事故防止運動キャンペーン」を展開し、チラシや啓発物を配布して交通事故防止を呼びかけました。



藤沢北
「海の女王」を招き湘南台駅前広場・通路において、チラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけ、夏の交通事故防止運動を周知しました。



座間
夏の交通事故防止運動に先がけ、園児134名、引率教諭等とともに、警察署裏庭で笹竹2本に短冊を飾り付け、交通安全祈願を行いました。



あなたの会費が交通安全活動に役立っています

編集後記

”節電の夏”今年、暑さは格別のように感じる。そんな中、当協会では、7月7日横浜文化体育館で「交通安全高齢者自転車大会」を開催しました。この大会は、高齢者の自転車事故が多発、増加傾向にあることから、自転車競技大会を通じて交通安全意識の高揚と運転技能の向上を図ることにより、交通事故を防止しようとする開催したものです。

大会には、県内13地区の安全協会から選ばれた65歳以上の39名が、ヘルメットを着用した凛々しい姿で、安全、技能走行に挑戦していただきました。慣れない板のり走行やジグザグ走行に四苦八苦、大声で気合いを入れながら挑む選手や緊張のあまりコースを大きく外す選手など、応援する方もハラハラ、ドキドキ、時には溜息あり爆笑ありの大会となりました。

参加者から
「若い頃の動きを思い出しながら運転したが、体がついてこなかった。」
「毎日乗っているのに自信はあつたが、判断力の低下を改めて思い知った。」
「この体験を実際の道路でも活かしていきたい。」
などの声があり、大会は初めての試みでしたが自転車の正しい乗り方を通じて、自転車事故をなくし交通安全の大切さを理解していただく、よい機会となりました。

競技終了後、県警の交通安全教育隊から今年から始まりました「チリリンスクール(自転車交通安全講習)」の指導があり、参加者全員に自転車の安全な乗り方の認定証と指導員バッジが交付されました。

参加者の皆さんには、それぞれの地域で模範運転をしていただくと共に、自転車の安全運転の指導員として活躍していただくことを期待しております。

(N・N記)